

会 議 録

1 会議名

令和7年度 第7回中郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）報告（公開）

過疎地域持続的発展計画策定の事前説明について（地域政策課）

（2）協議（公開）

- ・自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について
- ・新たな自主的審議事項「い～住プロジェクト」について
- ・その他

3 開催日時

令和7年10月27日（月） 午後6時30分から午後8時40分まで

4 開催場所

中郷コミュニティプラザ ホール

5 傍聴人の数

報道0名 傍聴0名

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委 員：竹内会長、陸川副会長、岡田委員、尾崎委員、桐山委員、高橋委員、竹内委員、松岡委員、村越委員、陸川委員、欠席1名
- ・事 務 局：中郷区総合事務所 高波所長、金井次長、朝日市民生活・福祉グループ長（教育・文化グループ長兼任）、桐山地域振興班長、更山地域振興班主事、近藤総務班長、早川税・市民生活班長
- ・地域政策課：内海課長、笛田地域振興係長
- ・多文化共生課：北澤副課長

8 発言の内容（要旨）

【桐山班長】

坂田委員の辞職届を 10 月 16 日（木）付け受理したことを報告し、会議の開会を宣言。

上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【竹内会長】

第 7 回中郷区地域協議会を開催する。

鹿島委員が 11 月 27 日（木）にアメリカから帰国する予定。

会議録の確認を岡田委員、高橋委員に依頼。

初めに、報告事項「過疎地域持続的発展計画策定の事前説明について」地域政策課の内海課長に説明を求める。

【内海課長】

資料「上越市過疎地域持続的発展計画の策定について」及び「上越市過疎地域持続発展計画（案）」を基に説明。

【高橋委員】

地域の団体が、補助を受けるためには申請が必要なのか。

【内海課長】

過疎地域持続的発展計画は市や県が行う事業が対象となっている。地域の団体の場合は、計画に記載の補助メニューを活用いただくか、地域独自の予算事業などを申請していただくことになる。

【高橋委員】

「上越市過疎地域持続発展計画（案）」の 19 ページにある「農業次世代人材投資事業」では次世代を担う農業者を志す人に対し、資金を交付する旨の記載があるが、交付にあたる申請は総合事務所で受け付けるのか。

【内海課長】

申請が必要な事業はそれぞれ担当課があるため、担当課または総合事務所に申請いただくことになる。

【高橋委員】

地域協議会では「い～住プロジェクト」を進めている。利用できる補助制度があれば、担当課や総合事務所へ問合わせればいいのか。

【内海課長】

市が行っている事業で利用できるものがあれば、担当課または総合事務所にご相談いただきたい。また、地域協議会の審議で、新たな事業を開始したいということになれば、意見書として市に提案いただくことも可能。市が新たな事業として実施することになれば、過疎地域持続的発展計画に追加される。

【高橋委員】

今後、中郷区を PR していく中で小冊子を作成しようとなった場合に、ソフト事業として補助を受けることができるのか聞きたい。

【内海課長】

多文化共生課で移住定住の支援を行っている。市が行っている事業の中で対象となるものがあればご活用いただける。補助の対象となるものがなく、中郷区独自で PR をしていきたいということであれば、地域独自の予算事業として提案いただくことも可能。具体的な内容によって流れが変わってくるので、個別にご相談いただければと思う。

【高橋委員】

必要に応じて担当課から地域協議会に説明や相談にお越しいただけるという認識でよいか。

【内海課長】

お役に立てることがあれば、ご協力させていただく。

【竹内会長】

あくまでも市の事業に関する計画になるので、我々の行いたいものの事業化については、地域独自の予算事業として申請を行うことになっている。地域協議会として移住定住や小中学校の存続に目を向けている状態のため、市とも情報共有しながら進めていきたい。

過疎地域持続的発展計画は 5 年という長いスパンの計画になるため、修正が可能なのか、市政の動きも読めない状況なので、細かな確認等が必要な場合は改めてお聞きしたい。

11 月の地域協議会ではワークショップを予定しているため、時間を取りにくい状況であるが、諮問はどのように行う予定か。

【内海課長】

日程の詳細は後日調整させていただく。

【高波所長】

ワークショップ前後での時間調整も必要になると思われる。

【竹内会長】

各委員には、諮問までに過疎地域持続的発展計画の資料に目を通していただき、質問等があれば事務局まで問合せいただきたい。

ここで、地域政策課は退席とし、協議に移る。(1) 自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について、事務局に資料 No.1 の説明を求める。

【桐山班長】

資料 No.1 を基に説明。

【竹内会長】

運営団体の声に「乗り降りの補助がほぼ不要になった」という表記があるが、安全な乗降に関する検討が今後されなくなるのではないかという心配がある。高齢者の利用が多いため、乗降の補助については今後も検討していただきたい。また、運転手の人材育成について、講習会に係る費用の補填はあるのか確認いただきたい。

次に、「い～場所開設事業の進捗状況」について、事務局に資料 No.2・3 の説明を求める。

【更山主事】

資料 No.2・3 を基に説明。

本日、中郷コミュニティプラザで第2回い～場所開設事業が実施された。27名が参加し、新規での参加者は4名だった。怪我等のトラブルが発生することなく無事に終了した。学校から会場までの送迎は、レンタル車両と「さくら号」を使用し、2台体制で行った。詳細については、改めて報告させていただく。

また、第3回については当初11月11日（火）の実施を予定していたが、小学校の下校が給食前に変更になったことにより、17日（月）に日程を変更した。保護者・子どもへは周知済み。

【竹内会長】

保護者から、ありがたいという声を聞いている。怪我等防止のため見守り体制について拡充できるとよい。小学校1年生と6年生では過ごし方が変わってくる。本日参加した高学年の児童から「勉強する場所がない」という話を聞いた。そこに中学生も加わると雰囲気も変わってくるので、異年齢の子どもたちが過ごしやすい環境づくりについて、今後協議できれば良いと思う。今のところ大きなトラブルはなく、子どもたちが楽しんでいるのであれば問題ない。

【陸川委員】

勉強する場所については確保していたが、途中から遊びだす子がいたため、勉強に集中できない状況になっていた。宿題は遊ぶ前にした方が良いと思うので、勉強する場所の確保や声かけ等を継続していきたい。

【竹内会長】

続いて、(2) 新たな自主的審議事項「い～住プロジェクト」の協議に移る。

10 月 10 日（金）に開催された「第 10 回小中一貫小規模校全国サミット in まつのやま」への視察の概要について、事務局に資料 No. 4 の説明を求める。

【更山主事】

資料 No. 4 を基に説明。

【尾崎委員】

1 年生から 9 年生までという編成で、中学生が中心となった児童生徒会が指揮を執っているような状態だった。小学生も中学生の指示をよく聞いている姿があり、大人びているような印象だった。松之山の地域と一体となって行事などに携われていることが良いと思った。

【竹内委員】

1 年生から 9 年生までの縦割り班での活動を見学し、中学生がリードし、学年の隔たりがなく、楽しそうに活動している姿が印象的だった。地域の方が地域の子どもたちを育てようという思いが強いことが分かった。学園の方針に惹かれて移住を決めた方もいたので、特色ある学校が地域にあることも移住促進に繋がるのだと感じた。

【陸川委員】

中郷区では小学生・中学生それぞれが行事等を行っているが、松之山では小中学生が一緒になって行っていることが良いと思った。松之山の自然の豊かさを活かした山菜採り、スキーなどを子どもたちと地域住民が一緒に体験していることが良いと感じた。

【桐山委員】

先日、CS 委員会に出席した際に、中郷小学校も 5 年後には複式学級になる可能性があるという聞いた。実際に複式学級となった場合に、地域でフォローできるような体制を準備しなければならないのではないか。

【竹内会長】

これから、中郷区の小中学校の存続に関する協議に向けて、まつのやま学園が小中一貫校となった経緯を知りたい。後日でよいので回答いただきたい。

【高橋委員】

学園で働いている教職員について教えていただきたい。小学校教諭と中学校教諭との関係がうまくいっているのか気になる。

【更山主事】

十日町市立の学校のため、新潟県の教職員が働いている。サミットの中で、まつのやま学園に赴任すると教職員が異動したくなくなるという話があったため、教職員にとっても、やりがいを感じる環境があるのだと考えられる。

【尾崎委員】

学園の建物が体育館を中心として、1～6年生の校舎と7～9年生の校舎がある造りだった。職員室も小中学校の職員が同じ部屋になっているため、日常的に情報交換ができる環境になっていた。

【竹内会長】

また機会があれば、直接まつのやま学園へ研修に行くことも可能だと思うので、ご意見いただければと思う。

10月20日（月）に「移住定住諏訪の会」との意見交換会を実施した。「移住定住諏訪の会」から、移住定住に向けた取組みを実行していくために、中郷区地域協議会やさとまる学校の事例を参考にしながら検討していきたいという話があった。さとまる学校で実施している、空き家相談窓口業務が話の中心となったが、諏訪区においても人口減少や小学校の統合により、若者の定住が課題となっていることが分かった。今後も諏訪区と接点を持ちながら情報交換等ができればよい。

【高橋委員】

「移住定住諏訪の会」は2017年に発足され、メンバーの中に公民館を管理している方がいるためか、移住定住に関してかなり多くの情報を持っていると感じた。しかし、諏訪区の中で活動を実行する組織がないために、どのようにメンバーや資金を集め、活動していけばよいか分からないという状況があるのではないかと思った。

【竹内会長】

諏訪区には住民組織がないと聞いた。地域協議会や「移住定住諏訪の会」と連携し、事業を実行していくような組織がないことが課題だと感じた。

【陸川副会長】

移住定住に対する強い熱意を持っていることが印象的だった。中郷区地域協議会は長い期間、委員をされている方が多くて羨ましいと話があった。市の担当者との連携についても、もどかしさを感じているようだった。

【竹内会長】

続いて、上越市の移住定住の取組について、多文化共生課の北澤副課長に説明を求める。

【北澤副課長】

資料「上越市の移住定住の取組」を基に説明。

【竹内会長】

説明のあったような事業が、過疎地域持続的発展計画にも関係してくるのか。

【北澤副課長】

説明させていただいたものは、過疎地域も含めた市全体の取組であるため、過疎地域持続的発展計画に載っているものもある。

【松岡委員】

私は7年前に中郷区に移住したが、当時は補助等があったのか。

【北澤副課長】

当課の住宅取得や家賃への補助は令和3年度から、移住・就業支援金は平成28年度から始まったため、制度の対象に該当していた可能性はある。

【竹内会長】

情報を発信する側と受取り側のマッチングは重要だと思う。

【北澤副課長】

現在は、市の移住に関する取組についてA4サイズのチラシとしてまとめたものを、市民課や総合事務所の市民生活・福祉グループの窓口で、転入手続の際にお渡ししている。

【桐山委員】

上越市HPの移住定住に関するページのアクセス数を知りたい。また、移住・定住コンシェルジュへ毎日どれくらいの問い合わせがあるのか知りたい。

【北澤副課長】

サブサイト「住もっさ上越」は、上越市HPの中でアクセス数の上位10位に入っており、毎月6,000回くらいのアクセスがある。

移住・定住コンシェルジュへの問合せについては、毎日あり、多い時は1日に10件以上あることもある。上越市について知りたい、移住や補助制度について知りたいなど、様々な相談がある。令和6年度は約380件の相談があった。

【桐山委員】

上越市のHPで中郷区についての情報を充実させていくこともひとつの方法として良いのではないかと感じた。それと合わせてSNSを活用していきたい。

【竹内会長】

中郷区として、これから情報発信を中心に、移住定住の取組を進めようと考えている。今後HPやSNSを誰が運営していくかという協議を行うことになるが、中郷区に市から定住支援コーディネーターを派遣いただくなど、専従職員が必要になるのではないと思う。中郷区だけが市とリンクしていくことは難しいと考えられるが、市の担当から助言をもらいながら一緒に取組を進めていくことができるとよい。

【高橋委員】

浦川原区の現状を教えていただきたい。

【北澤副課長】

上越市創造行政研究所のまちづくりワークショップは、令和5年度にモデル地区として大島区・浦川原区・牧区から始まった。まちづくりワークショップを通じて検討した取組について、令和6年度は取組が止まっていたが、ワークショップに参加していた若い世代が、もう一度取組を行おうと動き出した。若い世代の中には、自分が住む地域が今後どうになってしまうのかという危機感を持っている人がいるのだと感じた。

【高橋委員】

中郷区でも若い世代にどんどん育ってほしいと思っている。

【北澤副課長】

中郷区では若い世代が核となって活動しているという印象があるので、今後行うワークショップから出た取組について、住民団体と連携しながらうまく進めていけるのではないかと考えている。

また、HPについて、他の自治体で自治体公式HPとは別に、独自で移住定住に関するHPを運営しているケースがあり、とても見栄えの良いものもある。公式HPでは制約が多いため、独自のHPを持つことも課題。

【竹内会長】

空き家が出ても、空き家バンクに登録する前に外国人が購入するケースが多い。若い世代も土地を買って新居を建てたいという方が多い傾向にあるので、安くても良い土地を購入できるような仕組みがあるとよいかもしれない。リフォームよりも新築補助について、近隣と足並みをそろえていくことも必要だと思っている。

次に、「い〜住プロジェクト」の今後の進め方について、事務局に資料 No. 5・6 の説明を求める。

【桐山班長】

資料 No. 5・6 を基に説明。

【竹内会長】

前回の地域協議会の後に、高橋委員から提案があったので紹介させていただく。最大のテーマを「人口問題」とし、子育て世代の移住・Uターンや農業従事者の移住などの的を絞って取り組んでいけるとよいと意見をいただいた。

妻が中郷区出身、夫が中郷区外の出身の世帯が転入してきた例がある。その方たちに話を聞く機会をつくりたいと思っている。

次回以降ワークショップを実施することとなるが、可能な限り全員ご参加いただきたい。また、開催時間について午後 6 時からとさせていただく。

11 月 26 日（水）までに、会長・副会長・桐山委員・村越委員で今後の進め方について協議させていただく。

以上で協議を終了とする。

11 月 10 日（月）に大島区・浦川原区・安塚区の地域協議会委員合同研修で、中郷区地域協議会の会長として講話をすることになっている。「い〜住プロジェクト」について話をするので、ご承知おきいただきたい。また、11 月 13 日（木）にさとまる学校として、南魚沼市からの視察を受け入れる予定。

その他、質問・意見はあるか。（なし）

以上で、本日の地域協議会は終了とする。

9 問合わせ先

中郷区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL：0255-74-2411（内線 165） E-mail：nakago-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。